

第7回資料

価値/調性の自己増殖？

全体的な、拡大された価値形態 : y/x (x =相対的な価値形態にある商品、 y =等価形態にある諸商品)

一般的な価値形態 : $x/x+y$

($x+y$ とは、何らかの理由からつねにすでにあるモノを媒介とした商品世界が成立していることを意味している。)

貨幣形態 :

$$\frac{y}{x} = \frac{x}{x+y} = a$$

x = 貨幣

y = 商品

$x+y$ = 貨幣によって媒介されている商品世界 (市場)

a = 価値 (剰余価値、利子)

貨幣以外のすべての他の商品が自らの価値を貨幣で表現するその結果、貨幣が貨幣になる。

全体的な、拡大された価値形態 y/x において、貨幣 x は個々のモノたち y との交換可能性によって、貨幣としての価値を表現し、また同時に一般的な価値形態 $x/x+y$ において、貨幣 x は市場のすべての商品 $x+y$ にとってつねに交換可能な対象であることによって、それらの価値が表現されている鏡として機能する。すなわち、貨幣はそのとき “貨幣” となる。

すこし角度をかえて、見てみよう。

資本形態 :

$$\frac{y}{x} = \frac{x}{x+y} = a$$

x = 貨幣

y = 商品

$x+y$ = 商品の体裁をとった資本

a = 価値 (剰余価値、利子)

「貨幣-商品-貨幣の流通において商品と貨幣はいずれも価値自体の異なる存在様態として、つまり貨幣はその一般的様態として、商品はその特別な、いわば単に変装した様態として機能しているのである。価値はたえず一方の形態から他方の形態へと移行し、この運動のなかで失われることはない。こうして価値は自動的^{オートマチック}な主体へと転化される。自己増殖する価値がその生涯にわたる循環のなかで交互にとる特別な現象形態をそれぞれじっくり

見てみれば、資本は貨幣であり、資本は商品であるという二つの声明に行き着くことになる。しかし実際は、価値はここで、あるプロセスの主体になる。そのプロセスにおいて価値は貨幣と商品という二つの形態をたえず交互に取り替えながら、量自体を変化させ、元の価値としての自己から剰余価値としての自己を突き放し、自己増殖を遂げる。なぜなら価値が剰余価値を付加するその運動は価値自体の運動であり、価値の増殖、つまりは自己増殖だからである。価値は価値なので価値を付加するという神秘的な性質を価値は身につけたのである。(.....) 価値があるときは貨幣形態を脱ぎ捨て商品形態を取り、あるときは商品形態を脱ぎ捨て貨幣形態を取りながら、この交代のなかで自己を保持し拡張していくこうしたプロセスの横断的な主体として、価値はとくに単独の形態を必要としており、それによってまた価値はその自己同一性^{アイデンティティ}を確立することになる。そしてこのような形態を価値はもっぱら貨幣という形で得る。(マルクス『資本論』第一巻「貨幣の資本への転化」)
 下線部をそれぞれつぎのように読み替えてみよう。

- 貨幣→主調
- 商品→関係調、そして/あるいは属調
- 流通→転調
- 生涯→曲全体
- 資本→調性領域
- 価値→調性

問い：剰余調性とは、増殖する調性とは？

$$\frac{y}{x} = \frac{x}{x+y} = a$$

A～E にあてまる言葉を補いなさい。(マルクスの価値形態についての説明文を参照すること)

全体的な、拡大された調性形態 y/x において、(A) x は(B) y との(C)可能性によって、(A) としての価値を表現し、また同時に一般的な調性形態 $x/x+y$ において、(A) x はその(D) $x+y$ にとってつねに(C)可能な対象であることによって、それらの価値が表現されている鏡として機能する。すなわち、(A) はそのとき“(A)”となる。

- A ()
- B ()
- C ()
- D ()
- E ()

すなわち

$$\begin{aligned}
 x &= (\quad \quad \quad) \\
 y &= (\quad \quad \quad) \\
 x+y &= (\quad \quad \quad) \\
 a &= (\text{調性})
 \end{aligned}$$

である。

調的和声システムとは () と () の差異のシステムである。(Charles Rosen
の定義)

もしもその差異がなくなったとしたら、どうだろう？

そしてまた、マルクスの価値形態に無矛盾に適合する音楽システムとはどんなものだろう？

$$\frac{y}{x} = \frac{x}{x+y} = a$$

$$\begin{aligned}
 x &= (\quad \quad \quad) \\
 y &= (\quad \quad \quad) \\
 x+y &= (\quad \quad \quad) \\
 a &= (\quad \quad \quad)
 \end{aligned}$$